

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22830111

研究課題名（和文）民主体制下における先住民運動の多様な政治行動に関する構成主義を用いた比較分析

研究課題名（英文）Comparative analysis on political actions of indigenous movements under democratic regime: A constructivist perspective

研究代表者

宮地 隆廣（MIYACHI TAKAHIRO）

同志社大学・言語文化教育研究センター・助教

研究者番号：80580745

研究成果の概要（和文）：現代ラテンアメリカ政治の主要な政治アクターである先住民運動は、民主体制下において多様な政治行動を取る。本研究は最も活発な運動を有するボリビアとエクアドルにおける、アンデス高地帯と低地帯の運動 4 組織を比較した。先住民を取り巻く政治的環境は非常に似ているにもかかわらず、国政選挙参加と制度外的権力獲得（ゲリラ活動や権力機構の二重化）のタイミングは全く異なる。本研究は、行動の差の原因は各運動組織の形成する規範にあり、何を適切な行動とするかを判断する独自の見方を形成してきたことを示した。

研究成果の概要（英文）：The repertoire of political action under a democratic regime taken by Indigenous movements in contemporary Latin America is various. When comparing four indigenous organizations in Bolivia and Ecuador, we can find that the timing of participation in national elections and of extra institutional seizure of power (guerrilla movement, making a parallel government etc.) is different among them in spite of the fact that the political settings of the two countries are similar. This research takes a constructivist approach and finds out that the difference of action is caused by the difference of norms: each organization developed its own way of deciding what is an appropriate action

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,240,000	372,000	1,612,000
2011 年度	1,140,000	342,000	1,482,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,380,000	714,000	3,094,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：比較政治、構成主義、先住民運動、ボリビア、エクアドル、

## 1. 研究開始当初の背景

最近 30 年間の中南米現代政治において、先住民運動が強い存在感を示している。1970 年代後半より軍政の崩壊と民政移管を経験した当初、先住民集団は社会の近代化から遅れた存在と見なされ、各国における政治的発

言力は小さかった。しかしながら、21 世紀に入り、エクアドルでは 2002 年に先住民政党が与党連合に参加し、ボリビアでは 2006 年に先住民出身の大統領が登場するなど、先住民の存在はもはや同地域の政治を語る上では無視できない。

## 2. 研究の目的

しかしながら、先住民運動の政治的性格に関しては、国政参加に対する意識の高まりや反欧米的態度など、同質的な性格が強調されることが常である。こうした評価は、先住民運動が内包している多様な性格を見落とす可能性を持っており、実際にそのような批判も登場している。中南米の先住民運動研究のトレンドは、運動の持つ共通性をまとめる作業から、各集団の性格の差異を見出す作業へと方向が変わってきている。

申請者は、先住民運動が活発で、かつ歴史と地理の両面で類似した特徴を持つボリビアとエクアドルの、アンデス高地およびアマゾン低地に拠点を置く4つの組織を比較した。比較した行動は国政選挙への参加と、クーデターへの連座などの立憲制度外的な権力獲得行動であり、これらの行動のタイミングが四者四様に異なることが判明した。同様の政治的環境にあつて、こうした差異がみられることは、先住民運動の中に多様な規範が存在することが予想される。そこで、規範形成に着目する構成主義 (constructivism) を方法として採用し、その差異が実際の行動の差を説明するかを検討した。

## 3. 研究の方法

先住民運動の規範の特定のためには、運動組織にまつわる一次資料 (組織文書、新聞記事、回想録) を中心に、当時の組織の考え方を把握する必要がある。必要に応じてインタビューも交えつつ、規範の差異を明らかにした。

## 4. 研究成果

研究結果は当初の仮説の通りであった。同様の環境に囲まれ、同様の経験をしたとしても、先住民運動がそれらに同様な反応をするわけではなく、運動ごとに解釈の仕方が異なることがわかった。そして、異なる解釈を通じて形成された規範の差異が、実際の政治行動のタイミングの差異に対応していることが判明した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1. 宮地隆廣「ボリビア低地先住民運動と国政選挙参加—規範へのアプローチによる分析—」、『ラテンアメリカ研究年報』(日本ラテンアメリカ学会) 第31号、pp. 1-28、2011年6月。

[学会発表] (計3件)

1. 宮地隆廣「ボリビア先住民運動の分裂に関する考察」第48回ラテン・アメリカ政経学会、京都外国語大学1号館5階151教室、2011年11月12日。
2. Miyachi, Takahiro “Las políticas de desarrollo y conflictos sociales en la presidencia de Evo Morales”, 国際シンポジウム「ポストネオリベラル期ラテンアメリカにおける国家社会関係—紛争、格差と民主主義—」京都大学地域研究統合情報センター、京都大学稲盛財団記念館3階大会議室、2011年3月20日。
3. 宮地隆廣「比較政治学の分析枠組みとしてのコンストラクティヴィズム—アンデス先住民運動の比較分析を事例として—」日本比較政治学会大会、自由企画4「コンストラクティヴィズムをめぐる比較政治学と国際政治学の対話」東京外国語大学研究講義棟109室、2010年6月19日。

[その他] 学位論文

宮地隆廣「先住民運動の規範と政治行動—構成主義アプローチによるボリビアとエクアドルの比較分析」東京大学大学院総合文化研究科学学位論文、2011年7月。

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮地 隆廣 (MIYACHI TAKAHIRO)

同志社大学・言語文化教育研究センター・助教

研究者番号：80580745